

ビキニデー in 高知

知ることから始めよう 広範な核被害の事実

5月15・17日、高知県内で「ビキニデー in 高知2023」が開催されました(主催・同実行委員会)。全国から250人超が集い、太平洋核被災について学びを深め、広島、長崎、福島、そして世界の被ばく者と連帯し、核のない未来へ向けて、多様な行動を続けていくことを確認し合いました。(丸山いぶき記者)

終わっていない
「太平洋核被災」

「ビキニデー in 高知」の開催は今年で3回目。「核被災を学び、核のない未来へつながろう」と、フィールドワークや特別交流会、全体集会を行いました。民医連からも十数人の職員が、長期休暇を利用して自主的に、あるいは職場の援助を受けて参加。共同組織か



津野さん

らの参加も多数あり、高知民医連の職員らは実行委員会や事務局に加わり、運営を担いました。

まず「民医連医療」22年11月〜23年1月号連載「操業中に核実験で被ばくし、後に発症したがんなどに対し船員保険の適用(医療・遺族給付)」を求める訴訟(東京地裁)と、政治決着で賠償請求権が奪われたことに対する損失補償を求める訴訟(高知地裁)です。

これらの訴訟は、1985年から高知で始まった、高校生による元船員の追跡調査で明らかにになった事実から出発しています。

「足元から体感する学びでつながり、核なき世界へ」

隠された事実を
掘り起こした高校生たち

現在、高知の元漁船員とその遺族は、2つの裁判をたたかっており、民医連の医師らも支援してい

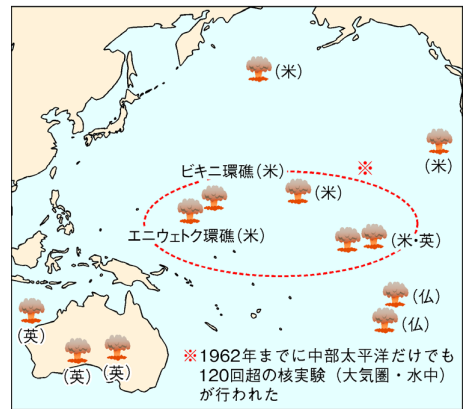
核なき未来へ歩む 世界とともに



漁船で足摺沖へ



図 太平洋での核実験 (米・英・仏)



漁船でめぐる足摺沖クルーズでは、高波が打ちつけ、不規則に大きく揺さぶられる船の縁にしっかりとつかまる参加者たち。元船員が「板一枚下は地獄」と語った海上の過酷さを想像する体験でした。太平洋に臨み、米国の核実験がくり返されたマーシャル諸島にも思いをはせました。

世界でつづく核の不正義
許さないたたかいを



全体集会で握手する山下さんとエヴェレンさん

米国は1946〜58年の間、マーシャル諸島で計67回(ビキニ環礁23回、エニウェトク環礁44回、広島型原爆の7000倍規模の核実験を行いました(図)。被害は核実験場だけに留まらず、周辺の島々を汚染し、住民に深刻な健康被害を与えています。

今後は、そんなマーシャル諸島から、同共和国政府の核問題委員会・教育普及担当「エヴェレン・レボウルシェアリックさん」も参加。広島の大生らとともに、高知の運動とも連携を深めました。



エヴェレンさん

被ばくした船員の生の声を聞き、姿、生活の場を見ることで、ビキニ二事件がぐんと身近に感じられた。放射能はのちを損なうモノであることを再確認。より大きな脅威となる核兵器を持つための核実験は、その結果である健康影響を隠し、無視してきた、まさに犯罪。健康といのち、人権を踏み

●鈴木誠さん(香川・高松平和病院、S.W.)

●池橋陽子さん(岡山・林精神医学研究所、事務)

●白坂大輔さん(福岡・米の山病院、診療放射線技師)

●徳原隆盛さん(福岡・健和会、介護士)

通信募集 文書に写真を添え、氏名、事業所名、連絡先を明記、min-shinbun@min-iren.gr.jp へ。通信の採用は掲載をもって代えさせていただきます



【神奈川発】4月19日、川崎協同病院

【長谷川貴子、事務】

北から 南から 北から 南から



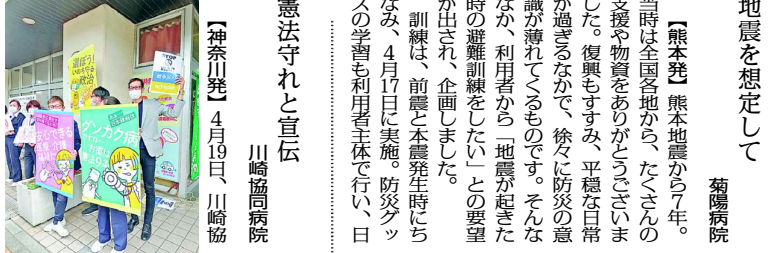
【兵庫発】尼崎医療生協病院・東神戸病院・神戸協同病院・共立病院の4病院で高知生の看護師体験を開催し、306人が参加



【宮崎発】4月8日、3年ぶりに全事業所を対象とした新入職員歓迎会を開きました。新入職員17人(医師3、看護師9、薬剤師1、臨床検査技師1、事務2、介護支援専門員1)を含む90人が参加。



【奈良発】当県連の医師委員会では、法人を越えた交流を再開しようとして、昨年11月から屋外・アウトラでの交流を始めています。



【熊本発】熊本地震から7年。当時は全国各地から、たくさんのお客様や物資をありがたうございました。復興もすすみ、平穏な日常が過ぎるなかで、徐々に防災の意識が薄れてくるものです。